

呼吸器専門医後期臨床プログラム（呼吸器センター内科）

文責：松浦圭文

1. プログラムの目的と特徴

呼吸器領域疾患で COPD、呼吸器感染症、肺癌は、今後の我国の疾患別死亡率の 5 位中 3 つも入ることが確実で呼吸器専門医の育成は非常に重要な課題である。当科では人間関係が希薄なこの時代こそ、優しく患者に接し、家族を見るような歪のない本音の医療を行えるような実地臨床に即した質の高い呼吸器専門医を育成の理念としている。

2. 呼吸器センターの状況

年間入院患者数は結核病棟も含め約 800 名。1~3 次まで網羅する実に様々な幅広い疾患を短期間に経験できる。中でも、肺癌は患者の半数を占め、肺癌手術症例年間 80 例前後で県内でもトップクラスでがん拠点病院に指定されている。在宅酸素療法 112 名、在宅人工呼吸管理 26 名、睡眠呼吸障害に対しての CPAP 約 500 名行っている。実地臨床に加え、医療レベルの向上のため臨床研究、学会活動、論文作成等にも力を入れ、研修のバックアップと環境づくりも整備されている。

3. 取得できる専門医

日本内科認定医、専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸内視鏡学会専門医、日本睡眠学会認定医、日本アレルギー学会専門医

それぞれの学会の多くは、内科認定医、専門医を取得し 5 年経過したのちにそれぞれの受験資格を得ることができる。

4. プログラムの研修内容

（研修 1 年目）

呼吸器一般の基本処置、非侵襲性人工呼吸（NPPV）を含めた呼吸管理、抗生物質の使い方、胸部 X 線、CT などの系統立てた読影、呼吸生理の理解、肺癌診断、呼吸リハビリ、在宅酸素療法、呼吸器感染症、COPD、気管支喘息治療の理解、胸腔ドレーン、胸水穿刺、気管支鏡安全にできる。

（研修 2 年目）

前期・後期研修医の指導、保健所、医師会関連の福祉事業への参画、研究会、学会への積極的参加、呼吸病理診断、医療倫理の理解、血管造影、心臓カテーテル、気管支動脈塞栓術などのインターベンショナル治療、気管支鏡下生検が確実にできるようになる。

5. 指導医、専門医、認定医取得医師名

堀江孝至：日本呼吸器学会指導医、専門医、日本内科学会認定医

松浦圭文：日本呼吸器学会指導医、専門医、日本内科学会認定医、睡眠学会認定医

原 靖果：日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定医

6. メッセージ

当科の採用したい医師の一番の基準は、やる気があり、人に優しく、性格のいい、すこしお人好しの方です。出身大学、大学の成績、在学年数は一切問いません。問題はこれからです。当科は出身大学が多様であり、それぞれの垣根がなく自由な雰囲気、他施設、大学、有名な呼吸器関連施設との互換性も良好で将来の進路に関しても相談に乗ることができる。